

塩尻市立図書館 サービス計画

塩尻市立図書館

2014（平成26）年5月

2018（平成30）年4月改訂

2021（令和3）年4月改訂

目次

1. 塩尻市立図書館サービス計画の策定にあたって	1
2. 塩尻市立図書館のミッション	2
3. 塩尻市立図書館のサービスの現状と課題、目標	5
I. 役立つ情報を提供する図書館	5
(ア) 資料の収集	
(イ) 資料の整理・保存	
(ウ) 資料の提供	
(エ) レファレンスサービス	
(オ) 分館	
II. 意欲と活動を応援する図書館	10
(ア) 乳幼児サービス・児童サービス	
(イ) 青少年サービス	
(ウ) 高齢者サービス	
(エ) バリアフリーサービス	
(オ) ビジネス支援サービス	
(カ) 子育て支援サービス	
(キ) 多文化・多言語サービス	
(ク) 医療・健康情報サービス	
(ケ) 図書館サポーターとの協働	
III. 進化する図書館	20
(ア) 地域資料の充実と活用	
(イ) 学校連携	
(ウ) 企画事業	
(エ) 情報発信	
(オ) デジタル資料の充実と活用	
4. サービス指標一覧	25
<hr/>	
資料編	26
塩尻市の概要	
統計データ	
塩尻市立図書館サービス計画の策定の経過	33

1. 塩尻市立図書館サービス計画の策定にあたって

塩尻市立図書館は2006（平成18）年3月、第4次塩尻市総合計画の策定に併せて、「塩尻市立図書館基本計画」を策定しました。

当時行われていた新図書館建設への議論と思いは、当該基本計画に凝縮され、その後、設計等の中でさらに具体的な議論が進められました。そして、2010（平成22）年7月、えんぱーくと名付けられた複合施設内に、塩尻市市民交流センターの中心施設として新図書館は開館しました。

新図書館の建設にあたっては、職員はもとより、多くの市民の皆様が議論に参加し、基本計画とともに、「これからの図書館像（文部科学省 2006）」により示された課題解決型の、地域の拠点となりうる図書館とすることが強く意識されました。どうすることがその理念を具体化し、多くの皆様に役立ち、支持される図書館へとつながっていくのか、その模索と試みが開館以降の図書館運営であったとも言えます。

また、新図書館では、従来の図書館では得られない様々な機能を、複合施設として他の施設と同居したことを積極的にとらえることにより、得ることができました。それは、他の多くの機能と連携することにより、新しい図書館の可能性を得ることができるという新図書館の姿をも生み出しました。えんぱーく内の諸機能と連携することはもちろん、市内外の様々な機関や団体等との協力関係の構築に力を入れることが、新しい図書館の可能性や役割を強化していく課程において重要な用件の一つとなっています。

2006（平成18）年度の塩尻市立図書館基本計画は、新しい図書館への期待と希望を計画に込める作業が中心に行われました。今回の図書館サービス計画は、その後に出来上がった器の特性を生かしながら、図書館に求められている諸機能を具体化し、さらに役立つ図書館へと進化し続けるための指針として策定作業を行いました。

本計画は、2014（平成26）年度から2023年度までの10か年計画とします。さらに、第5次塩尻市総合計画の期間に合わせ、前期を4か年、中期を3か年、後期を3か年の3期に分け、それぞれの期間で目標となる指標を設定し、評価、見直しを行うこととします。

2. 塩尻市立図書館のミッション

塩尻市立図書館本館が入居する塩尻市市民交流センターは、図書館のほか、市民活動を支援する「交流支援課」と「子育て支援センター」の3セクションからなっています。施設は、図書館エリア、子育て支援センターエリア、市民交流エリアからなり、このほか建物内には、市観光課、塩尻市振興公社、塩尻商工会議所、塩尻市ふるさとハローワーク、民間企業等があり、官民が同居した複合施設となっています。「えんぱーく」は、この建物全体の愛称です。

市民交流センターは、「知恵の交流を通じた人づくりの場」を基本コンセプトに据えています。活動の重点分野として、「図書館」「子育て支援・青少年交流」「シニア活動支援」「ビジネス支援」「市民活動」を掲げ、その実現のために、

- ① 役立つ情報を提供する
- ② 意欲と活動を応援する
- ③ センター自身が進化する

という3つを目指すこととしています。

この実現と、市民のためのより高いサービスの提供を実現するため、運営にあたっては、「協働による運営」や「機能融合を目指した事業運営」等を掲げ、市民交流センター全体が一つのサービス体となる仕組みと取り組みが意識されています。図書館もその一員として、従来の図書館機能の充実とともに、他の機能との連携による新しい図書館サービスの実現を目指しています。

これらのことから、「塩尻市立図書館サービス計画」による図書館の目指す方向は、市民交流センターの方針に沿って次のとおりとします。

【ミッション】

『知恵の交流を通じた人づくりの場』

【目指すこと】

1. 役立つ情報を提供する図書館
2. 意欲と活動を応援する図書館
3. 進化する図書館

塩尻市立図書館が目指す3つの方針は、多様な図書館業務をそのいずれかに分類するものではなく、それぞれの業務が、役立つ情報を提供し、利用者に応援し、そしてより高いサービスの実現へと進化していく、という命題をもつ形になっています。

しかしながら、諸業務を体系的に捉えていくために、本サービス計画では、図書館サービスの基盤を形づくる「情報」に主眼を置き、そこから派生する基幹的サービスを「1」に組み込み、利用者のニーズ等様々な属性に基づいて行われる諸サービスを「2」に、「3」には、従来の図書館の枠を超えた幅広い図書館活用の実現を目指したサービスに分類して計画を構築します。

1. 役立つ情報を提供する図書館

情報の収集、整理、保存、活用という図書館の基幹機能の充実なくして総合的な図書館力の発揮はありえないという認識のもと、資料収集や組織化の方針、方法を定めます。そのもとに、資料をより有益に活用できる排架やフロアワークの方向を分館も含めて全体的に定めます。

これらの機能に支えられて、レファレンスサービス^{※1)}等を充実させ、必要な情報を必要な人に早く的確に届ける体制を整えます。

2. 意欲と活動を応援する図書館

図書館は、市民の多種多様に展開する生活や仕事、学習等の活動と係わることができます。それら個別ニーズに沿った機能を充実させ、それぞれの活動を支援する機能を備える取り組みを進めます。

分野としては、乳幼児サービス・児童サービス、青少年サービス、高齢者サービス、バリアフリーサービス、ビジネス支援サービス、子育て支援サービス、多文化・多言語サービス、医療・健康情報サービスを、先行して充実させる取り組みとします。

また、図書館を活動の場とする図書館サポーターの受け入れ、および読書活動ボランティア等との連携、支援を積極的に行い、市民とともにつくる図書館づくりを進めます。

これらにより、市民が様々な場で活動し、課題を解決し、さらにその活動を広げる機会を提供します。

3. 進化する図書館

「図書館は成長する有機体」^{※2)}との認識のもと、常に新しい基軸を生み出せるよう考え、試み続けます。

その根幹は、「地域」です。地域は、市民生活のありとあらゆる活動を包含しています。その地域に役立つ図書館、地域を支援できる図書館となることを目指します。

そのためにまず、地域、郷土の資料の収集、保存を重要な取り組みの一つと位置付け、地域の記憶装置としての機能を高めます。

また、図書館が情報発信基地となって、市民への情報提供はもちろん、市外へ向けて塩尻市を様々な角度から発信する役割を担う取り組みを進めます。そのために、他の図書館や学校図書館、他の諸機関、諸団体との連携、ネットワーク化を進めます。その中でも特に、地域の書店や出版関係者との連携により、地域の読書環境を整備し、出版文化に寄与できる活動に取り組みます。

※1 何らかの資料や情報を求めている利用者に対して、図書館員がその調査のお手伝いをする事

※2 S.R.ランガナタン『図書館学の五法則』（日本図書館協会 1981）より

図書館が 目指すこと		図書館の 取り組み		内 容
Ⅰ	役立つ情報を 提供する図書館	1	必要な情報に最短でつながります	(ア) 資料の収集 (イ) 資料の整理・保存
		2	役立つ情報が見つかります	(ウ) 資料の提供 (エ) レファレンスサービス
		3	新しい情報に出会えます	(オ) 分館
Ⅱ	意欲と活動を 応援する図書館	4	活動を始めの機会を提供します	(ア) 乳幼児サービス・児童サービス (イ) 青少年サービス (ウ) 高齢者サービス (エ) バリアフリーサービス (オ) ビジネス支援サービス
		5	活動を広げる機会を提供します	(カ) 子育て支援サービス (キ) 多文化・多言語サービス (ク) 医療・健康情報サービス (ケ) 図書館サポーターとの協働
Ⅲ	進化する図書館	6	知恵を蓄積・活用・創造します	(ア) 地域資料の充実と活用 (イ) 学校連携 (ウ) 企画事業
		7	地域の価値を発信します	(エ) 情報発信 (オ) デジタル資料の充実と活用

I. 役立つ情報を提供する図書館

(ア) 資料の収集

〈現状と課題〉
<p>資料収集方針・資料選択基準に基づき、課題解決型図書館^{※3)}の基本を形成する資料収集を行っている。</p> <p>一般書の収集方針として、一つのタイトルを複数冊所蔵することを控え、多くの要求に対応できるよう幅広い分野の資料や出版点数の少ない専門図書等をそろえ、近隣の図書館、市内書店等と違う特色を出せるように意識している。</p> <p>収集にあたっては宿場、街道、考古学、ぶどう、ワイン、漆器、短歌など地域の特色を生かした資料の収集を行っている。</p> <p>筑摩書房の出版物に関しては、創立者の古田晁氏が塩尻市出身であることから、出版物を定期的に御寄贈いただいております。ほかにない貴重なコレクションとなっている。そのほか、創立者が塩尻市出身の哲学書房で出版されていた図書も多くそろえている。</p> <p>全体の出版点数が少ない児童書については、長年読み継がれている絵本、独自に作成しているブックリスト掲載本や学校支援用の図書など、必要なものは複数冊購入し、楽しみのための読書支援だけでなく調べ学習等の求めに対応できるようにしている。</p> <p>雑誌については、レファレンス等への活用を意識し、本館だけで約400タイトルをそろえている。</p> <p>視聴覚資料については、県内出身又は在住の演者による音楽や、県内出身の監督又は県内がロケ地として使用された映像作品等を中心に、一定の評価を得ている作品を優先して収集するよう意識している。</p> <p>このほか、新聞や冊子、チラシ等媒体に関わらず、必要な資料は広く収集している。資料の提供とあわせ、収集した資料の活用方法の検討が課題である。</p>
〈サービス方針〉
<p>市民生活に役立つ課題解決型図書館の基盤を構築し、様々な需要に応えることができる幅広い資料収集を進める。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ 多様な情報媒体による情報・資料の把握に努め、ニーズに合った資料収集を進める。・ 資料収集方針・資料選択基準を適切に運用し、必要に応じて見直す。・ 定期的に、資料収集状況を確認、改善する。・ 行政資料を積極的に収集する。
〈サービス指標〉
<p>蔵書数：54万点（雑誌、視聴覚資料は除く）</p>

※3 趣味や娯楽の場にとどまらず、地域の課題を解決するための情報拠点として役立つことを目指す図書館

(イ) 資料の整理・保存

〈現状と課題〉
<p>資料の整理・保存は、資料を提供するための土台となるものである。</p> <p>まず、整理については、本館・各分館共に、利用者にとって魅力的な書棚づくりのために、バランスが良くかつ特色ある開架※⁴、図書の構成を意識した排架※⁵、及び除架※⁶を計画的に進めることで資料の整理を行っている。</p> <p>各種団体等から発行される広報紙、パンフレット類等は、図書館業務システムにデータを登録せず、分野ごとに担当職員が整理している。そのため、利用者からの求めに対応するためには、多岐に渡る資料の存在を把握し、新たな資料の発掘・収集に力を入れる必要がある。</p> <p>行政資料に関しては塩尻市に関する資料を優先して処理しており、他市町村から寄贈される資料の整理が遅れる傾向がある。速やかな資料提供に備えて、迅速な処理を進める必要がある。</p> <p>寄贈された資料のうち、出版年が古い一部の雑誌の登録を進めており、2020（令和2）年度に戦時中の雑誌を広丘図書館で展示した。また、除架基準・除籍基準を基に書架の整理を進めており、今後も継続して行っていく必要がある。</p> <p>保存については、資料に収録されている「知」を後の世代に残し伝えるという図書館の使命に基づいて行う必要がある。保管は、書庫がある本館で集中して管理しているため、分野ごと計画的に管理していく必要がある。</p>
〈サービス方針〉
<p>市民生活を支援できるよう幅広い情報の整理、保存を適切に行い、地域に役立つ図書館としての資源の蓄積に努める。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ データ登録されていない資料を整理、保存し公開する。・ 除籍資料及びリサイクルのため図書館に持ち込まれた資料の有効活用を進める。・ 除架基準・除籍基準を運用し、適切な資料の整理を進める。
〈サービス指標〉
<p>蔵書数：54万点（雑誌、視聴覚資料は除く）</p>

※⁴ 利用者が本を自由に手に取って閲覧できるようにしてある書棚（⇔開架）

※⁵ 書棚に本を並べること

※⁶ 開架されている本を閉架にすること

(ウ) 資料の提供

〈現状と課題〉

本館・分館共に、一般的な図書分類法（日本十進分類法）を採用しているが、これにとらわれすぎることなく、可能な限り一つのテーマについて一ヶ所で必要な情報が入手できるように資料を並べている。内容に関連のある本は分野が違っていても同じ書棚に並べたり、図書、視聴覚等の形態の違いにかかわらず近くに置いたりするなど、書店の陳列方法等を参考にしながら工夫をしている。

利用者にとって魅力ある資料を提供できるよう、分野ごとに担当者を設け、書棚の整理をし、資料の収集等にかかっている。

分館では、定期的に本館と資料の入れ替えをしたり、独自にテーマを設けて本を集めたりしながら、利用する側が飽きない書棚づくりを行っている。特徴的な書棚以外は必要な資料に差が出ないようにしていくことが必要である。

また、職員のホスピタリティとして、カウンターやフロアに出る際には利用者の様子に気を配るとともに、意識的に職員から声を掛けるようにしている。所蔵がない資料を求められた場合は、リクエストサービスや図書館間相互貸借サービス※⁷⁾を活用して可能な限り利用者の求めに対応している。

利用者に、所蔵されている資料を活用してもらうため、展示やテーマなど公開方法等も検討が必要である。

個人貸出のほかに、市内の団体には多数の本が長期で借りられる団体貸出サービスを提供しているが、館内の貸出だけでなく、新たなシステムを使った館外での出張図書館など、より良い資料提供を積極的に行っていく必要がある。

〈サービス方針〉

資料と人をつなぐことが図書館の使命との考えに基づき、求めのある資料を提供することはもちろん、資料と人の仲立ちができる職員の育成を進めるとともに、潜在的ニーズを掘り起こすことのできる仕掛けづくりを進める。

〈今後の計画〉

- ・ 職員の資質並びにホスピタリティの向上を図る。
- ・ 各分野で多彩なテーマボックス※⁸⁾を行うことにより、利用者の多様な関心に応え、潜在的なニーズを掘り起こす。
- ・ 新鮮な資料が継続的に提供できるよう、情報収集に努める。
- ・ 他団体等の催事に合わせた本の企画展示等、資料と人をつなぐ、出会いを生む機会の創出に努める。
- ・ 出張図書館など、館内での通常貸出以外の資料提供方法を検討する。

〈サービス指標〉

人口一人当たりの貸出冊数：10冊／年

※⁷⁾ 利用者の求める資料を所蔵していない場合、他館から借り受けて提供すること

※⁸⁾ あるテーマに関する様々な資料を集めた期間限定の特設コーナー

(エ) レファレンスサービス

〈現状と課題〉
<p>本館・分館共にレファレンスは最重要サービスである。レファレンス事例のうち、調査にある程度の時間を要したものは国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に登録しており、データを活用し類似の質問に迅速に回答できるようにしている。</p> <p>調査経過を記録しないクイックレファレンス※⁹⁾については質問事項のみ記録し、質問傾向をパスファインダー※¹⁰⁾等に反映できるよう整理しており、今後はパスファインダーを作成していく必要がある。</p> <p>本館においては8種類の商用データベース等を無料で提供しており、レファレンスにも利用している。また利用者自身の調査にも役立ててもらえるよう、周知や案内を行っている。新たにデータベースを導入した広丘図書館においても活用機会を増やすことが課題である。</p> <p>分館だけでの調査が難しい質問については、本館職員がバックアップをするようにしているが、解決後の事例共有なども含め、連携をより緊密にすることが課題である。</p> <p>図書館の資料だけでは調査が難しいレファレンスへの対応や、データベースの活用も含めた職員のレファレンス技術の向上についても課題となっている。</p>
〈サービス方針〉
<p>利用者の課題解決を図る最重要サービスとして、体制の強化、技術の向上、データの蓄積を図る。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ レファレンス協同データベースに多数の事例を登録することにより、役立つ情報を提供・発信する。・ 分野ごとにパスファインダーや本のリストを作成し、利用者が自力で情報にたどりつく手助けをする。・ 庁内の各部署や外部の専門機関との連携を深め、図書館の資料では調査しきれない質問にも対応できるようにする。・ データベースの活用を含めた、職員のレファレンス技術の向上を図る。
〈サービス指標〉
レファレンス受付件数（全館）：2, 500件以上/年

※⁹⁾ 単なる所蔵照会など、回答に時間を要しないレファレンス

※¹⁰⁾ あることがらについての調べ方をまとめたガイド

(オ) 分館

〈現状と課題〉
<p>小学校区単位ごとに図書館が配置され、8分館が地域に根ざしたサービスを行っている。</p> <p>2019（令和元）年に移転開館した広丘図書館は、広丘地区の図書館としての機能のほか、北部地域の中心となる図書館としてサービスを展開していく。</p> <p>各分館は図書館として求められる規模としては決して十分なものではないが、移動図書館（自動車図書館）を持たない塩尻市のサービス体制としては、地区単位でサービスを展開できる重要な拠点となっている。規模が小さな図書館であるため、予約サービスや物流、本館のバックアップによるレファレンス体制を充実させるとともに、きめ細かな対応が求められる。</p> <p>また、地域の読書推進はもちろんのこと、地域住民の情報やニーズがつかみやすい立場をいかして、地域で行われるイベント等と連携した取り組みを行い、住民の役に立つ図書館として体制を整えて行く必要がある。</p>
〈サービス方針〉
<p>全市域にきめ細かなサービス提供をするための地域拠点として、重要な役割を有していることから、あらゆる面で図書館としての機能の充実を図っていく。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ 地域の特色をつかんだ蔵書構成を目指しつつも、構成が偏らないように配慮する。・ 図書の入替え、新しい企画展示等を随時行い、新しい資料提供が常にできる図書館づくりを進める。・ 地域にある保育園・幼稚園や小学校・中学校との連携を進める。・ 地域の人や団体との連携により、地域に根差した企画を発信する。・ 老朽化施設の今後について、関係課や地元との協議に積極的に関わる。・ 広丘図書館を北部地域の拠点とし、主に吉田分館・片丘分館と連携を図りながら住民のニーズに応じたサービスを行う。
〈サービス指標〉
<p>公民館や地域と連携した企画事業：各館3回／年</p>

I. 意欲と活動を応援する図書館

(ア) 乳幼児サービス・児童サービス

〈現状と課題〉

○乳幼児サービス

乳幼児期（0歳から就学前）は、絵本を読んでもらうことで言葉に興味を示し、語彙を増やしていく時期であることから、読み聞かせに重点を置き、様々な場所で絵本や物語に触れることができる機会を設けている。

親子で一緒に絵本に触れるきっかけづくりとして、4か月健診時にブックスタート（こんにちは絵本）^{※11)}と、3歳児健診時にセカンドブック（なかよし絵本）^{※12)}を実施している。

本やおはなしの楽しさを直接体験する機会として、赤ちゃん絵本の読み聞かせの会や分館で乳幼児向けのおはなし会を開催している。

○児童サービス

小学生になると、読み聞かせだけでなく、一人で本を読むことができるようになることから、絵本だけでなく、読み物を手に取り、想像しながら本の世界を楽しむことができるように適切な本を子どもたちに届けられる工夫が必要である。

毎週土曜日におはなし会を実施しているほか、分館でも年間を通じたおはなし会を実施している。また、読書推進アドバイザーを中心として、保育園や小学校などに出張して読み聞かせやおはなし会を行う「おはなしプレゼント」を随時実施し、物語の世界を楽しんでもらう機会を定期的に設けている。

子ども向けの広報紙「こども図書館だより」の発行のほか、季節やイベントに合わせた絵本や読み物を紹介するテーマブックを実施し、テーマに沿ったブックリストを作成し、子どもたちの本に対する興味関心を引く工夫をしている。

P T A親子文庫は、昭和58年の活動当初に比べ、読書を取り巻く環境が大きく変化しているため、小学校の現状を把握し、運営内容を検討する必要がある。

児童書の回転率が2012（平成24）年度以降、2冊に達していない。調べ学習関連（0～8類）の資料を学校の授業で活用するほか、読み物など小学校高学年の読書をどう進めるかが課題である。子どもたちの読書活動をさらに推進するため、読書手帳の活用や、使いやすく魅力的な書架づくりを行い、一人ひとりの年齢や発達段階に応じて本を手渡すことを大切にサービスを行っていく。

〈サービス方針〉

発達段階に応じた資料の提供及びテーマブックやブックリストにより、子どもの読書への興味関心を引き出す工夫を行う。

子育て支援センターや保育園、幼稚園、学校、児童館等と協力して、子どもの読書環境を整える取り組みを進める。

※11 4か月の赤ちゃんに絵本をプレゼントし、絵本を通じて親子の絆を深めることを目的とした事業。

※12 ブックスタート事業に続いて、3歳の子どもに絵本をプレゼントする事業。

〈今後の計画〉

- ・ 目的や子どもの年齢に応じた企画事業を実施する。
- ・ 年齢に合わせたブックリストを適宜改訂する。
- ・ 読書手帳の活用を促進する。
- ・ 質問が多い事例をレファレンス協同データベースに登録し、日々のレファレンスサービスに活用する。
- ・ 図書館利用に結び付けられるよう「なかよし絵本」の配布方法を検討する。
- ・ P T A親子文庫の運営内容を検討する。
- ・ 第3次子ども読書活動推進計画に基づき、より良いサービスの提供に努める。
- ・ 資料の見直し及び入れ替えを定期的実施し、児童書の充実を図る。

〈サービス指標〉

児童書の蔵書回転率：2冊／年

(イ) 青少年サービス

〈現状と課題〉

中学生・高校生は、児童書から一般書への読書の転換期であり、人格やキャリアプランの形成に重要な時期である。そのため、情報を収集し、活用する力を身に付けるためには、楽しみとしての読書だけでなく、課題を解決するための読書を体験させる必要があり、この世代に向けた積極的なサービスの取組みが求められる。

本館・広丘図書館では、中学生・高校生向けのコーナーを設置している。本館では、公募により決まった「若葉のコーナー」という名称を使用し、物語のほかに、学校図書館との蔵書の違いを意識しながら中学生・高校生の生活や興味関心にあわせた、部活、勉強・受験、サブカルチャーなど独自の視点で集めた本と雑誌を並べている。テーマブックス行い、中学生・高校生の図書館利用を促すとともに、季刊で情報紙「Wa・Ka・Ba」を発行し、情報発信に努めている。

また、職場体験・就業体験、学校の授業等での使用の積極的な受け入れを行っており、図書館の活用方法や理解を深めてもらうよう努めている。

現在、中学生・高校生共に日常的に図書館を利用する学生は少なく、魅力のあるコーナーづくりや中学生・高校生のニーズを的確に把握し、情報の収集・提供などのサービスに反映することが必要である。そのため、2018（平成30）年度から高校生・大学生等を対象とした塩尻市立図書館学生ボランティア「しおり部」を開始し、年間約10人が月1回活動している。実際に学生の意見を反映した図書館作りを行うことで、より学生が利用しやすい図書館を目指している。今後も図書館の周知を行い、多くの学生が活動していくことができるようにしていくことが課題である。

全国高校生ビブリオバトルの長野県大会を塩尻市立図書館で開催するのに合わせ、しおり部の学生が参加するなど、高校生に対する来館のきっかけづくりを進めている。また、中学生にも興味関心を持ってもらえるよう、活動を広めていく必要がある。

〈サービス方針〉

読書離れが進むといわれる中学生・高校生世代の、読書への関心を高める取り組みを進めるとともに、課題解決のための図書館利用を広げる取り組みを進める。

〈今後の計画〉

- ・ ホームページの見直しを行い、情報発信の質を高めるため、SNSによる情報発信について検討する。
- ・ 資料の充実とニーズを反映させた情報を置くことで、魅力のある棚づくりを行う。
- ・ より身近な分館と連絡を密にして、棚づくりのバックアップを行う。
- ・ 学生ボランティアの受入れを行い、社会参画の場の提供とサービスの向上を目指す。
- ・ 高校を中心とした学校連携を強化し、図書館利用教育の受入れを行う。

〈サービス指標〉

中高生の利用者数（全館）：5,500人以上／年

(ウ) 高齢者サービス

〈現状と課題〉
<p>えんぱーくは、基本コンセプトを実現するための5つの重点分野のひとつを「シニア活動支援」としている。</p> <p>学習活動や社会活動に意欲的な高齢者の活動を支援する体制を整え、活動の場の提供や、新たな関心を喚起する取り組みとして、えんぱーくでは3階市民サロンを憩いや学習の場として提供している。本館では、高齢者向けのコーナーとして「いきいき浪漫コーナー」を設置している。「いきいき浪漫コーナー」には、健康づくり、くらし、おしゃれ、趣味などの様々な分野の資料や高齢者向けの雑誌をそろえ、定期的にテーマブックスを行っている。2019（令和元）年度からは、「シニア向け図書館活用講座」を開催し、高齢者に広く図書館を知ってもらおうきっかけづくりを行った。</p> <p>また、図書館シネマ倶楽部との連携としては、高齢者向けに名作映画のDVD鑑賞会を年数回開催している。</p> <p>しかし、これらについての周知は十分であるとは言えない。現在、図書館を利用していない高齢者のニーズを把握し、分館や関係団体と協力しながらより多くの情報発信を行うことが課題である。</p>
〈サービス方針〉
<p>経験豊かな高齢者が持つ「知恵」や「文化」を継承し、その活動を支援するとともに、豊かな生活の実現に寄与できるサービスを多面的に検討し、利用しやすい図書館づくりを進める。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者が持つ知識や経験を生かすためのしくみづくりを検討する。・ 塩尻ロマン大学の学習活動を支援し、図書館の利用につなげる。・ 各地域や公民館等で行われている高齢者の活動の状況把握に努め、関係団体と連携しながら支援を進める。・ 社会福祉協議会や公民館など関係部署及び関係機関と連携を図る。・ 高齢者向けの企画を行い、情報発信を強化する。「いきいき浪漫コーナー」の充実と活用を進める。
〈サービス指標〉
<p>高齢者向けサービス部門等と連携した出張図書館等の企画事業の実施：10回／年</p>

(エ) バリアフリーサービス

〈現状と課題〉
<p>様々な理由や事情により、図書館の利用や資料の利用に何らかの支障がある方々や、来館が困難な方々へのサービス拡大を進めるとともに、おはなし会や講演会などへの参加に障がいとなっていることを取り除いていく必要がある。</p> <p>2013（平成25）年度にサピエ^{※13}）に加入し、2017（平成29）年度からボランティアの協力を得てデジタル録音図書「DAISY」^{※14}）の作成に着手した。会話が困難な方のための筆談ボードに加え、コミュニケーションボードを各カウンターに用意した。来館が困難な方のために来館代理ボランティア制度を整え、図書館を利用したい本人が来館できなくても、貸出利用ができるようになった。</p> <p>2017（平成29）年度には聴覚に障がいのある方も楽しめる「手話で楽しむおはなし会」の実施と、松本ろう学校小学部児童の館内見学の受入れとおはなし会を行った。サービス内容や体制が整っていない部分があり、充実しているとはいえない状況にある。</p> <p>また、DAISYやLLブックなど障がいのある方のために作られた資料について、利用者へのアピールするため、本館に障がいのある児童に向けた、LLブックやさわる絵本、点字絵本などの読みやすい資料を集めた「りんごの棚」を設置した。2020（令和2）年度には、広丘図書館にも「りんごの棚」の資料を排架した。</p> <p>声の広報のCDを作成し図書館で貸出を行ったが、よりサービスに必要な知識や経験を持った職員の育成と、サービスを必要とする利用者への積極的な周知が必要である。</p> <p>図書館利用に障がいのある方の実態を把握し、基本方針や体制を整えてサービスを実現することが課題となっている。</p>
〈サービス方針〉
<p>来館することができない人も含め、必要な情報を必要な形で提供できるように、サービスを検討し、実現していく。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ 朗読ボランティアや社会福祉協議会などの関連諸機関と連携して、図書館利用に障がいのある方々の実態を把握し、利用者への情報発信、サービスの利用につなげていく。・ 障がいのある方のための資料を充実させるとともに、「手話で楽しむおはなし会」などの企画事業の実施と情報発信の強化を行う。・ 障害者手帳を持つ方以外のDAISYの貸出利用ができる体制を整える。・ DAISY再生機や拡大読書器等の活用と対面朗読室の利用促進を図る。・ 朗読ボランティア等と連携し、対面朗読サービスについて検討して実施する。・ 職員の知識や技術の向上を図る。
〈サービス指標〉
<p>テーマブックを含む、企画・行事の開催：3件以上／年</p>

※13 視覚障がいのある方及び視覚による表現の認識に障がいのある方に対して様々な情報を提供する機関

※14 視覚障がいのある方や普通の印刷物を読むことが困難な方のためのデジタル録音図書

(オ) ビジネス支援サービス

〈現状と課題〉

えんぱーくは、基本コンセプトを実現するための5つの重点分野のひとつを「ビジネス支援」としている。課題解決型図書館を目指す中での重要なサービスと位置付けており「ビジネス支援図書館推進協議会」の施設会員となり、先進図書館とのつながりを強めながら情報の収集に努めている。

本館・広丘図書館では「しごと情報コーナー」を設置し、働く個人が抱える課題の解決に役立つ資料を集めている。コーナーでは定期的に棚の見直しを行い、中小企業庁のパンフレットを配置している。また、本館・広丘図書館・塩尻東分館・北小野分館では、ハローワーク松本の求人情報紙や講座等のチラシを設置・配布している。

2014（平成26）年4月に、雑誌カバーに企業広告を掲載する「雑誌広告掲載制度」を設けたことで、事業者向けのサービスが本格的にスタートした。2016（平成28）年11月からは、（公財）長野県中小企業振興センターとの共催で、中小企業や事業主、創業を希望する方をサポートする「ビジネス情報相談会」を開始した。月に一度の開催だったが、2019（令和元）年には月3回の相談会と月に1回のミニセミナーを行い、より幅広いサポートを行っている。

前期に比べサービスが充実する中、サービスの周知はこれまでどおり進めるとともに、ビジネス情報相談会を活用した創業者の誕生や新商品の誕生などの成果を挙げていきたい。

〈サービス方針〉

働く人や働こうとしている人、企業やNPO等、様々な経済活動を支援するサービスを継続的に進める。

〈今後の計画〉

- ・ 諸機関との連携を促進し、新たなサービスを開発する。
- ・ ハローワーク、商工会議所との連携を強化する。
- ・ 雑誌広告掲載制度の周知に努める。
- ・ 経済動向に応じた柔軟な企画を随時行う。
- ・ 市内企業等を紹介する企画展示を開催する。
- ・ 情報発信を強化し、サービスの周知に努める。
- ・ 職員のビジネス支援サービスに関する知識や技術の向上を図る。

〈サービス指標〉

ビジネス支援サービスの広報回数：10件以上／年

ビジネス相談会への相談件数：25件以上／年

ビジネス相談会を活用した創業者の誕生：1件以上／年

(カ) 子育て支援サービス

〈現状と課題〉
<p>塩尻市では「子育てしたくなるまち日本一」を目指し、妊娠前から子どもが18歳になるまで、切れ目のない支援を行っている。</p> <p>図書館も子育て応援施設の一つと位置づけられていることから、全館に「子育て応援コーナー」を設置し、子育て関連資料の提供を開始している。</p> <p>また、本館は子育て支援センターが併設されていることから、同センターが行う妊娠8か月の妊婦のための「マタニティママ&パパの応援教室」などに出向いて図書館の紹介を行うほか、普段から子育ての悩みなどの相談の橋渡し役としても利用されている。</p> <p>2019（令和元）年度に開館した北部交流センターも、移転した広丘図書館と北部子育て支援センター等が入る複合施設である。このことを活かし、子育ての悩みに役立つ本を紹介したブックリストを作成して、図書館や北部支援センターで配布している。今後も関係部署と連携を図りながら、子育て世代を対象とした読書推進や情報提供を進めて、効果的なサービスを提供していく。</p> <p>塩尻市の子育て支援施策は年々充実を図っており、様々な部署が関わっている。それぞれの部署が個別に情報を発信していることを踏まえ、図書館はこれらの情報をまとめて収集し、必要な情報を整理して提供することが必要である。</p>
〈サービス方針〉
子育ての悩みを解決し、子育てを支援する取り組みを関係機関等と連携して進める。
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ 子育てに関する資料を充実させる。・ 塩尻市等の実施する子育て関連事業の情報を収集・整理・発信する。・ 子育て支援センターとの連携をさらに強化する。・ 子育て関係部署と連携した資料提供や情報発信を行う。・ 子育ての不安や悩みを解決するヒントとなるように、定期的に子育て関連のテーマブックスを実施する。
〈サービス指標〉
図書館又は子育て関係部署と連携した出張図書館等企画事業の実施：20回／年

(キ) 多文化・多言語サービス

〈現状と課題〉
<p>全ての図書館利用者に快適に図書館を利用できる環境づくりを目指すため、本館に多言語資料を提供する「洋書コーナー」を設け、雑誌、新聞を含む資料の充実を行い、英語・ポルトガル語・中国語版の利用案内、英語版の予約リクエストカードを作成し活用している。また、職員用の英語版対応マニュアルを作成し、随時更新をしている。</p> <p>また、2013（平成25）年度から乳幼児・児童向けに「英語のおはなし会」を開始した。</p> <p>2020（令和2）年度の学習指導要領の改訂により、小学校高学年で英語を教科として取り扱うことになったため、小学生の英語学習に役立つ資料の提供等の支援を行っていく必要がある。また、必要に応じて小学校と連携を図り、授業に役立つ資料の団体貸出や、保護者向けの資料の準備を行う。</p>
〈サービス方針〉
ニーズに応じた多文化・多言語サービスの創出と、資料の有効活用を進める。
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ 蔵書統計の貸出数、蔵書回転率を参考に選書・発注し、季節ごとに入れ替えするなど、書架の鮮度を保つ。・ 多様な言語の資料を意識して収集する。・ 行政情報等、暮らしに必要な情報を収集・発信する。・ 市内の日本語学級・日本語講座の資料の充実と支援を行う。・ 小学校の外国語教育に役立つ資料の充実
〈サービス指標〉
外国語で書かれた資料の購入：150冊／年

(ク) 医療・健康情報サービス

〈現状と課題〉
<p>健康や病気についての情報が入手しやすい環境を作るため、本館に、闘病記や、がんの情報コーナーを設置している。</p> <p>医学書に関しては、過去のレファレンス記録なども参照し、できるだけ網羅的に選書をしているが、特に難病や症例の少ない疾患などは資料が少なく有用な情報を提供することが難しい。またこれらの情報を調査・提供する際には、科学的根拠等、情報の信頼性を判断することが求められ、その知識や技術を習得することが必要である。</p> <p>図書以外にも国や県などが発行した医療関連パンフレットの収集等、多様な情報を提供できるようにしていくことが必要である。</p> <p>市の担当部署や医療関係機関との連携は、欠かすことのできない要素である。</p> <p>前期は市内外の医療機関の講演会に参加し、会場で本の貸出などを行った。このような活動を継続することが重要である。</p>
〈サービス方針〉
<p>科学的根拠に留意しながら幅広い資料を収集するとともに、専門機関等と連携し、利用者の抱える問題に応じた情報を提供できるよう努める。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ 医療について多様な情報を提供できるよう、県・市等が発行する医療関連パンフレット等を収集・提供する。・ 他機関との連携を行い、医療関連の講演や研修、イベント等の情報を図書館で発信するとともに、会場において図書館の利用案内を行う。・ 病気に関する専門書については新しい情報を提供していく。・ 認知症予防などのニーズが高まりつつある分野の資料収集と提供に努める。
〈サービス指標〉
<p>市の担当部署や医療機関等と連携した企画事業の実施：2回／年</p>

(ケ) 図書館サポーターとの協働

〈現状と課題〉
<p>図書館で活動をしているサポーターは、現在日常的には、おはなし会の実施、返本作業、装備・修理作業などをしていただいている。また、定期的に「図書館シネマ倶楽部」の名でDVD鑑賞会を年4回開催している。</p> <p>市民の読書活動との連携及び支援のために、「塩尻市読書活動グループ連絡会」を組織し、図書館が事務局となって、相互の情報交換や連絡調整にあたっている。読み聞かせボランティアグループや新たに活動しようとしている市民のために、研修会を実施するほか、県等が主催する講座の情報提供にも努めている。また、新規サポーターを募るために、「図書館サポーター養成講座」を定期的を開講している。</p> <p>また、塩尻市で活動されている朗読ボランティアの方に図書館サポーターとなっていただき、対面朗読室での対面朗読を図書館職員とサポーターが定期的に来れるように、準備を進めている。</p> <p>活動の場が充実したものになるよう、サポーターとコミュニケーションをとり、よりよいパートナーシップを築く必要がある。</p>
〈サービス方針〉
<p>図書館でのボランティア活動が気持ちよくできるよう、環境整備を進めるとともに、図書館の施設や本を含む備品を使ったボランティア活動の支援を積極的に行う。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ 定期的にサポーター養成講座を開き、サポーターを募集する。既登録者の学び直しの間としても講座を活用する。・ 図書館サポート活動がしやすい環境を整える。・ 新たな活動の場の提供を検討する。・ 図書館とサポーターとが相互に理解を深め、つながりを保つために、意見交換会の開催など、コミュニケーションを強化する。・ 信州しおじり本の寺子屋を通じた、利用者同士の交流・企画・運営について検討する。
〈サービス指標〉
<p>登録者との意見交換会の開催：4回／年</p>

I. 進化する図書館

(ア) 地域資料の充実と活用

〈現状と課題〉
<p>本館では長野県に関する資料を集めた地域資料コーナーを設置し、特に、塩尻市に関する資料、長野県の出版社の本、姉妹都市の資料、県内の学術・研究機関紀要、文芸同人誌などに力を入れて収集している。</p> <p>地域資料はできる限り複数冊所蔵し、内容が特定の地域に限定される資料については、東信・北信・南信・中信に区分けし、対応する市町村史誌と一緒に並べている。塩尻市に関する資料は、形態に関わらず網羅的に収集している。行政が作成する資料が集まりにくく、今後の収集、活用が課題である。</p> <p>「ワイン」、「短歌」、「松本山雅FC」「漆器」について、地域の特色を発信するコーナーづくりを行っている。</p> <p>広丘図書館では短歌・短歌館コーナーを設置するなど、塩尻短歌館と連携しながら主に短歌の里広丘の文化資産の情報を収集している。</p> <p>分館でも、限られたスペースではあるが、それぞれの地域の特性を意識した資料の収集と活用に努めている。</p> <p>市内の博物館との連携のひとつとして、短歌館の資料登録を行い、図書館のホームページで短歌館の蔵書を調べることが可能となった。他の博物館も随時進めていきたい。</p> <p>図書館が地域の記憶装置となるために、どのように地域資料を充実させていくのかが大きな課題である。</p> <p>地域資料は、レファレンスの際に改めて資料価値を見いだされることもある。より活用するためには、所在を整理してデータ化し、詳細な目次情報を加えることが必要である。</p>
〈サービス方針〉
<p>地域の記憶を収集、保存、活用することを、サービス計画全体の主要な柱の一つとし、継続的かつ積極的に取り組む。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ 地域資料を優先的に入手する。・ 市内の団体等の広報紙やパンフレットなど、図書以外の資料についての収集を拡大・継続する。・ 目次情報の入力により図書データを充実させ、レファレンスに迅速に対応できるよう資料価値を高める。・ 分館の地域資料も含め、必要な資料が所蔵されているか定期的に確認し整理する。・ 塩尻市出身の人物関係資料の収集と紹介を行う。・ 市内博物館を中心に他種館間連携による資料収集を進める。(MLA連携)
〈サービス指標〉
<p>地域資料にかかわる人物等の紹介や、地域資料を生かした企画事業の開催：3回／年</p>

(イ) 学校連携

〈現状と課題〉
<p>全ての子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、第3次子ども読書活動推進計画を策定し、『読書を通じて言葉と心を豊かにし、生きる力を育む』を基本理念に、学校、家庭、図書館が連携した取り組みを進めている。</p> <p>2013（平成25）年度から、市内小中学校の司書の人事を市立図書館に一元化し、学校図書館と公共図書館の連携のために情報交換による相互の状況把握と補完体制の強化をスタートした。</p> <p>また、学校図書館は児童生徒にとっての「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能を求められており、そのために市立図書館と学校図書館が蓄積してきたノウハウをいかし、両者の資質向上を図るとともに、資料の充実、図書館活用の積極的な推進を行っている。</p> <p>こうした取り組みをさらに充実させ、市が一丸となって児童・生徒の読書・学習環境を整え、読書活動の推進を進める必要がある。</p> <p>今後は、同地区内の図書館分館と学校の連携による協力体制の強化や、教育課程や授業内容に即した資料の収集、提供などについて充実させていく必要がある。</p>
〈サービス方針〉
<p>子どもの読書・学習環境の充実と、教職員を中心とした学校現場への支援を強化するため、学校及び学校図書館との連携強化を進める。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ 学校での読書への取り組みや図書館利用教育を積極的に推進する。・ 学校図書館機能の向上のため、研修の充実を図る。・ 学校図書館が学習センターとして機能するよう、公共図書館も教科・単元に沿った資料の収集、貸出を行う。・ 学校図書館の調べ学習を中心とした学習センター機能を高めるために、学校司書を含む教職員を対象とした資質向上のための研修を行う。・ 教職員が利用したくなる資料や情報を提供する。・ 各学校を適宜訪問し、事例や情報を共有してサービス向上につなげる。
〈サービス指標〉
<p>学校司書の研修の機会：3回以上／年</p>

(ウ) 企画事業

〈現状と課題〉

本館では幅広いテーマで企画事業を行っている。

「信州しおじり 本の寺子屋」では、図書館が中心となって生涯読書を推進し、出版文化の発展に寄与することをコンセプトに、本の可能性を考える機会を提供している。参加者の年齢層に高齢者が多いため、幅広い世代に向けた企画を行うことが課題である。

また、2015（平成27）年度から開校した「信州しおじり 子ども本の寺子屋」では、子どもたちに図書館や本の魅力を発信し、本の可能性を子どもたちと考える事業を実施している。

2017（平成29）年度に、本の寺子屋で「地域文化サロン」を開始し、2019（令和元）年度には県立長野図書館と大門商店の東座と連携するなど、地域振興を視野に入れた企画を行っている。

市民が所蔵するコレクション品の展示や、市内の施設や庁内と連携した展示の際は、展示内容に関連するテーマブックスを行い、本と人をつなぐきっかけとしている。

分館ではおはなし会や工作教室、コンサート、料理教室など、各世代に向けた行事を開催し、地域住民の利用促進を図っている。

2019（令和元）年度に、文化創造拠点シリウス（神奈川県大和市）、みんなの森ぎふメディアコスモス（岐阜市）との間で「図書館の連携・協力に関する同盟」を締結した。各館と情報交換を行い、相互に刺激しあいながら新たな企画を立案していく。

企画事業は市民にとって魅力的な内容であるだけでなく、「図書館PRの一手段」という認識のもと、図書館の機能を発信し、市民の図書館への愛着が深まるとともに、多くの方に図書館へ足を運んでいただき、本と出会う機会とする必要がある。一過性のイベントに終わらず、結果的に新規利用者や継続的な利用者の獲得につながるような企画をすることが課題である。

〈サービス方針〉

多様な企画により、図書館へ目を向け、図書館へ足を運び、図書館利用のきっかけとなる取り組みを進める。

〈今後の計画〉

- ・ 「信州しおじり 本の寺子屋」をメインに据え、本と人をつなぐ企画事業を発展させる。
- ・ 「信州しおじり 子ども本の寺子屋」は、子どもたちに本の魅力を伝える企画事業を展開していく。
- ・ (株)筑摩書房との連携強化を図る。
- ・ 古田晁記念館を維持・管理・活用する。
- ・ 信州大学附属図書館との連携協定に基づく事業展開を図る。
- ・ 各分館も含めて、幅広い世代に向けたきめ細かく多様な企画事業を行う。
- ・ 市民や諸団体、諸機関等と連携した企画事業を行う。
- ・ 企画の効果を測定し、評価と改善、見直しを行う。
- ・ 同盟を締結した各図書館、県立図書館と情報交換を行い、新たな事業の企画実施に繋げる。

〈サービス指標〉

イベント参加人数（全館）：18,000人／年

(エ) 情報発信

〈現状と課題〉
<p>図書館の様々な企画事業や利用案内等に関心を寄せる方々への情報発信は、当然行われなければならないものであるが、これに加えて、図書館を利用しない方々に図書館が有益な施設であることを伝えることが重要との考えに基づいて、絶え間ない情報発信を行っている。</p> <p>また、広範な情報発信は、図書館にとどまらず「塩尻市」を発信することでもあるという認識をしている。</p> <p>紙媒体による情報発信としては、図書館だより（子ども向け・中高生向け・本の紹介）や、各イベントのチラシ・ポスターを発行するほか、市の広報紙、マスコミ、連携部署で発行されるチラシ等に情報を掲載している。また、市のホームページ、図書館ホームページ、フェイスブックなどでの情報発信も行っている。また2020（令和2）年度には新たに公式YouTubeチャンネルへの動画公開を行い、図書館総合展 ONLINE にて、図書館 Live ツアーを行った。</p> <p>市民にとって有益であるとともに、図書館への理解が深まるような情報を効果的に発信することが課題である。</p> <p>他団体等との連携により、情報発信手段を共有しあうことで、双方にメリットのある情報発信等も研究する必要がある。</p>
〈サービス方針〉
<p>図書館が市民生活に欠くことのできない施設として認知されるために、多様な形による時宜を得た情報発信をする。さらに、市外へ向けた塩尻市の情報発信の一つとして、図書館情報を発信する。</p> <p>チラシやポスターのイメージに一貫性を持たせ、分かりやすい情報発信に努める。</p>
〈今後の計画〉
<ul style="list-style-type: none">・ より効果的な情報発信手段を検討し実施する。・ 図書館に関心のない方々の目に止まり、図書館を意識するきっかけとなる広報を行う。・ マスコミに積極的な情報提供と取材依頼を行う。
〈サービス指標〉
メディアに取り上げられる回数：200回／年

(オ) デジタル資料の充実と活用

〈現状と課題〉

本館1階ではインターネット用パソコンを一般・児童あわせて5台と、オンライン商用データベース用パソコン3台を配置している。また、2階では貸出用又は個人の持ち込みパソコンが利用できる座席を整備し、無線LANを利用することができる。

オンライン商用データベースは7種類を無料で提供するほか、2014（平成26）年1月からは「国立国会図書館デジタルコレクション送信サービス」の提供も始め、ハイブリッド図書館※¹⁵の利用を可能にしている。

2019（令和元）年には広丘図書館でもインターネット及びオンライン商用データベース用のパソコンを1台配置している。

デジタル資料を活用するためには、その存在の周知や利用環境の整備（機器の管理、マニュアル作成、利用教育等）を行うことと、利用状況を検証して適切なツールを選択することが必要である。

今後は資料のデジタルアーカイブ化が課題となっている。

特に、地域資料のデジタルアーカイブ化は喫緊の課題である。書籍化されていない資料では、例えば市内各地区の広報紙、風景や伝統行事の様子が分かる写真などが上げられる。また、古田晁記念館所蔵の書簡などは劣化が進んでいるため、保存の観点からもデジタル化の取り組みを進めたい。

また、県立長野図書館が主導している電子ブックの導入に向けた研究に積極的に参加していく。

〈サービス方針〉

今後の大きな環境変化が予想される分野であり、関連情報の収集に努めるとともに、効率的な活用の検討と導入を逐次進めていく。

〈今後の計画〉

- ・ 図書館で利用できるデジタル資料の存在を周知し、利用の促進を図る。
- ・ 職員、市民のデジタル資料の利用に関する知識や技術の向上の機会を設ける。
- ・ 新たなデジタル資料の利用や作成について検討を進める。
- ・ インターネット上の有用な情報資源の活用方法について検討する。
- ・ 地域資料をデジタル化する。
- ・ 県立長野図書館と連携し、デジタル地域資料の公開を進める。
- ・ アーカイブ化資料の閲覧を希望する人が手軽に見られる基盤と公開方法を検討する。
- ・ 電子ブック導入に向け、県立長野図書館主導の研究に参加する。

〈サービス指標〉

データベース利用促進のための企画開催：3回／年

※¹⁵ 電子媒体と印刷媒体の資料を組み合わせ利用できる図書館

4. サービス指標一覧

指標は3年後の2023年度末の達成を目標とし、同年に見直すものとします。

サービス内容	サービス指標
資料の収集	蔵書数：54万点（雑誌、視聴覚資料は除く）
資料の整理・保存	蔵書数：54万点（雑誌、視聴覚資料は除く）
資料の提供	人口一人当たりの貸出冊数：10冊／年
レファレンスサービス	レファレンス受付件数（全館）：2,500件以上／年
分館	公民館や地域と連携した企画事業：各館3回／年
乳幼児サービス・児童サービス	児童書の蔵書回転率：2冊／年
青少年サービス	中高生の利用者数（全館）：5,500人以上／年
高齢者サービス	高齢者が参加するイベント等で図書館を紹介する回数と高齢者向け企画事業の開催回数合計：10回／年
バリアフリーサービス	テーマブックを含む、企画・行事の開催：3件以上／年
ビジネス支援サービス	ビジネス支援サービスの広報回数：10件以上／年 ビジネス相談会への相談件数：25件以上／年 ビジネス相談会を活用した創業者の誕生：1件以上／年
子育て支援サービス	図書館又は子育て関係部署と連携した出張図書館等企画事業の実施：20回／年
多文化・多言語サービス	外国語で書かれた資料の購入：150冊／年
医療・健康情報サービス	市の担当部署や医療機関等と連携した企画事業の実施：2回／年
図書館サポーターとの協働	登録者との意見交換会の開催：4回／年
地域資料の充実と活用	地域資料にかかわる人物等の紹介や、地域資料を生かした企画事業の開催：3回／年
学校連携	学校司書の研修の機会：3回以上／年
企画事業	イベント参加人数（全館）：18,000人／年
情報発信	メディアに取り上げられる回数：200回／年
デジタル資料の充実と活用	データベース利用促進のための企画開催：3回／年

資料編

塩尻市の概要
統計データ

塩尻市は、1959（昭和34）年に塩尻町・片丘村・広丘村・宗賀村及び筑摩地村の1町4村が合併し市制を施行。その後、1961（昭和36）年には隣接の洗馬村が、また、2005（平成17）年4月には木曾郡檜川村が編入合併となり、今日に至っている。

地形は東西17.7km、南北37.8km、面積290.18km²で、その約70%が森林となっている。2013（平成25）年4月1日現在、人口67,272人、世帯数25,668世帯である。

長野県のほぼ中央に位置する本市は、北アルプス、中央アルプス、鉢伏連峰・高ボッチの山並みを背景に田園風景が広がり、また、信濃川水系の奈良井川と田川、天竜川水系の小野川が流下し、日本海と太平洋を隔てる中央分水界となっている。

本市には、旧石器時代から近現代に至る多くの遺跡や、有形・無形文化財など貴重な遺産が数多く存在している。なかでも豊かな水源を背景に、縄文時代以降長期に渡って集落が形成された平出遺跡は、国史跡に指定され、学術的に貴重な資料を多く出土している。

近世の遺産では、中山道・伊那街道（三州街道）・北国西街道沿いに栄えた塩尻宿・郷原宿・洗馬宿・本山宿・贄川宿・奈良井宿があり、今も往時の面影が残っている。特に、奈良井宿は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、「奈良井千軒」といわれるほど繁栄した個性的な町並みが今も保存されている。

また、隣接する木曾平沢地区は、漆工町として2006（平成18）年に同じく国の重要伝統的建造物群保存地区に指定され、町並み保存が進められている。

近代歌人の面影を偲ぶ広丘の歌碑公園には、近代短歌の潮流と言われる太田水穂、島木赤彦、若山牧水をはじめ、女流三歌人の若山喜志子、四賀光子、潮みどりらの歌碑が建立されている。また、隣接する短歌館にはそれらの歌人の遺品が数多く展示されており、毎年開催される「全国短歌フォーラムin塩尻」には、全国から数多くの短歌投稿があり、短歌愛好者が集っている。

豊かな緑につつまれた塩尻の農業は、野菜と果樹に代表されている。明治23年に桔梗ヶ原でブドウ栽培が始められ、近年、品質の向上とともに「桔梗ヶ原」の名で親しまれるようになってきたワインは、塩尻市が押すブランド戦略の重要な一品となっている。

また、標高が高い塩尻は、特に夏から秋にかけ昼夜の気温格差が大きい内陸性の気候で、洗馬のレタスに代表される葉菜類の栽培にも最適な地である。

工業面では、主力産業である電子、精密機器関係の集積を生かしながら、高付加価値及び先端技術産業の集積や人材ネットワークを高める、創造型産業都市を目指している。

商業面では、近年の交通体系の変化から、国道沿線を中心に大規模小売店の進出が増加し、大門地区及び広丘地区の中心市街地周辺商店街の活性化が、大きな課題となっている。

木曾平沢地区は一大漆器産地を形成し、漆器木工品を作る生産現場として優れた美と技が追求され続けている。同地区は、400年ともいわれる歴史をもつ、漆器関連産業で集落が形成された、全国でもめずらしい漆器産地である。

本市は古くから中山道、北国西街道、伊那街道（三州街道）などが交差し、現在でも国道19号、20号、153号、361号や、長野自動車道が通る交通の要衝の地である。鉄道も西と東の分岐点として重要な位置を占め、更にジェット化された信州まつもと空港が、北海道と九州を結んでいる。

今後も、公共輸送サービスの充実のため、特急列車のスピードアップをはじめ、空港の利用促進、高速バスの活用促進や地域振興バスの利用拡大など、一層の充実が図られつつある。

統計データ

1. 蔵書数
2. 資料回転率
3. レファレンス受付件数
4. 中高生利用者数
5. 広報紙発行回数
6. 新聞・雑誌掲載回数
7. 事業・イベント参加人数

表1 蔵書数*

年度	総数
2010 (H22)	362,472
2011 (H23)	387,158
2012 (H24)	406,198
2013 (H25)	422,333
2014 (H26)	438,707
2015 (H27)	455,816
2016 (H28)	467,703
2017 (H29)	480,591
2018 (H30)	497,313
2019 (R1)	503,349

表2 資料回転率*

年度	一般	児童
2010 (H22) *	1.14	2.08
2011 (H23)	1.25	2.19
2012 (H24)	1.27	2.04
2013 (H25)	1.12	1.91
2014 (H26)	1.0	1.86
2015 (H27)	0.95	1.87
2016 (H28)	0.95	1.81
2017 (H29)	0.95	1.84
2018 (H30)	0.89	1.79
2019 (R1) *	0.9	1.81

*雑誌・視聴覚資料は除く

※2010 (H22) 年度は2010 (H22) 年7月からの統計

※2019 (R1) 年度は新型コロナウイルス感染予防のため、全館で3月7日から3月27日まで一部サービスを停止

表3 レファレンス受付件数*

年度	本館	広丘	北小野	洗馬	宗賀	塩尻東	片丘	吉田	檜川	全館
2010 (H22) *	361	32	6	3	26	7	26	73	10	544
2011 (H23)	557	53	35	32	149	56	67	142	44	1,135
2012 (H24)	646	38	54	104	237	38	46	199	116	1,478
2013 (H25)	902	50	48	129	198	97	73	210	91	1,798
2014 (H26)	970	82	45	133	362	63	83	112	149	1,999
2015 (H27)	924	54	33	265	252	120	75	120	130	1,973
2016 (H28)	933	65	43	309	214	27	10	587	222	2,410
2017 (H29)	1,403	154	68	587	287	178	2	773	128	3,580
2018 (H30)	941	62	52	203	443	56	13	174	151	2,095
2019 (R1)	945	461	97	305	291	123	21	30	41	2,314

*所蔵照会は除く

※2010 (H22) 年度は2011 (H23) 年1月からの統計

※2019 (R1) 年度は新型コロナウイルス感染予防のため、全館で3月7日から3月27日まで一部サービスを停止

表4 中高生利用者数*

年度	中学生	高校生	合計
2010 (H22) *	3,451	2,388	5,839
2011 (H23)	3,592	3,137	6,729
2012 (H24)	3,675	3,317	6,992
2013 (H25)	3,336	2,667	6,003
2014 (H26)	3,262	2,509	5,771
2015 (H27)	3,439	2,559	5,998
2016 (H28)	3,171	2,340	5,551
2017 (H29)	3,233	2,354	5,587
2018 (H30)	2,926	2,112	5,038
2019 (R1)	3,166	2,125	5,291

*13～18歳の登録者のうち、年度内に貸出をした人数の累計(1人1日1カウント)

※2010 (H22) 年度は2010 (H22) 年7月からの統計

※2019 (R1) 年度は新型コロナウイルス感染予防のため、全館で3月7日から3月27日まで一部サービスを停止

表5 広報紙発行回数

年度	図書館だより (一般向け)	こども図書館だより (児童向け)	Wa・Ka・Ba (青少年向け)	Book Fan Newsletter	合計
2010 (H22) ※	6	0	0	0	6
2011 (H23)	10	10	4	0	24
2012 (H24)	12	12	4	9	37
2013 (H25)	12	12	4	12	40
2014 (H26)	12	12	4	12	40
2015 (H27)	12	12	4	12	40
2016 (H28)	12	12	4	12	40
2017 (H29)	12	12	4	12	40
2018 (H30)	12	12	4	13	41
2019 (R1)	12	12	4	12	40

※2010 (H22) 年度は2010 (H22) 年7月からの統計

表6 新聞・雑誌掲載回数

年度	朝 日*	信 毎*	市民 タイムズ	中 日	日 経*	読 売	新聞 その他	雑誌 ◆	書 籍	テレビ ラジオ	Web	その他	合 計
2010 (H22) ※	0	11	20	0	2	0	6	4					43
2011 (H23)	0	9	32	1	0	1	6	3					52
2012 (H24)	5	20	72	9	1	6	18	2					133
2013 (H25)	4	16	60	7	0	4	15	1					107
2014 (H26)	1	14	55	12	0	1	15	1					99
2015 (H27)	1	10	65	8	4	1	18	2		1			110
2016 (H28)	1	11	106	16	2	1	44	5	1	5	2		194
2017 (H29)	1	19	108	29	0	1	50	2	0	11	3		224
2018 (H30)	2	18	111	28	0	2	35	6	3	17	3		225
2019 (R1)	2	14	94	22	0	3	26	12	0	6	22		201

*印の新聞は記事データベースで検索、その他の新聞は掲載記事を手動でカウント

◆図書館蔵書検索システムで検索した結果

※2010 (H22) 年度は2010 (H22) 年7月からの統計

※2019 (R1) 年度は新型コロナウイルス感染予防のため、全館で3月7日から3月27日まで一部サービスを停止

表7 事業・イベント参加人数

年度	本館	分館	合計
2010 (H22) *	3,962	2,175	6,137
2011 (H23)	5,178	2,579	7,757
2012 (H24)	7,566	2,901	10,467
2013 (H25)	9,249	3,439	12,688
2014 (H26)	9,371	3,536	12,907
2015 (H27)	10,208	3,884	14,902
2016 (H28)	11,745	4,103	15,848
2017 (H29)	11,162	4,066	15,228
2018 (H30)	13,253	5,133	18,386
2019 (R1)	11,571	6,245	17,816

※2010 (H22) 年度は2010 (H22) 年7月からの統計

※2019 (R1) 年度は新型コロナウイルス感染予防のため、全館で3月7日から3月27日まで一部サービスを停止

塩尻市立図書館サービス計画の策定の経過

2013（平成25）年5月14日	第1回検討会議
2013（平成25）年6月27日	第2回検討会議
2013（平成25）年7月8日	第3回検討会議
2013（平成25）年8月23日	第4回検討会議
2013（平成25）年9月3日	第5回検討会議
2013（平成25）年9月8日	利用者アンケート実施
2013（平成25）年9月27日	第6回検討会議
2013（平成25）年10月8日	第7回検討会議
2013（平成25）年10月15日	第8回検討会議
2013（平成25）年10月22日	第9回検討会議
2013（平成25）年11月8日	第10回検討会議
2013（平成25）年11月19日	第11回検討会議
2013（平成25）年12月2日	第12回検討会議
2013（平成25）年12月5日	図書館協議会
2013（平成25）年12月10日	第13回検討会議
2013（平成25）年12月28日	第14回検討会議
2014（平成26）年1月16日	第15回検討会議
2014（平成26）年1月21日	第16回検討会議
2014（平成26）年1月23日	教育委員会
2014（平成26）年1月30日	図書館協議会
2014（平成26）年2月7日	第17回検討会議
2014（平成26）年2月13日	第18回検討会議
2014（平成26）年2月17日	第19回検討会議
2014（平成26）年2月20日	第20回検討会議
2014（平成26）年2月28日	図書館協議会
2014（平成26）年3月4日	第21回検討会議
2014（平成26）年3月10日～	パブリックコメント実施
2014（平成26）年4月8日	

2014（平成26）年4月24日 教育委員会

中期計画検討会議

2017（平成29）年10月16日 第1回検討会議
2017（平成29）年11月10日 第2回検討会議
2017（平成29）年12月7日 第3回検討会議
2017（平成29）年12月18日 図書館協議会
2018（平成30）年1月12日 第4回検討会議
2018（平成30）年1月29日 図書館協議会意見聴取
2018（平成30）年2月19日 第5回検討会議
2018（平成30）年2月20日 教育委員会協議会
2018（平成30）年3月6日 図書館協議会
2018（平成30）年3月6日 教育委員会意見聴取
2018（平成30）年3月12日 第6回検討会議
2018（平成30）年3月18日 第7回検討会議
2018（平成30）年3月22日 教育委員会

後期計画検討会議

2020（令和2）年8月4日 第1回検討会議
2020（令和2）年8月28日 第2回検討会議
2020（令和2）年9月28日 第3回検討会議
2020（令和2）年11月30日 第4回検討会議
2020（令和2）年12月4日 第5回検討会議
2020（令和2）年12月15日 図書館協議会事前送付
2020（令和2）年12月21日 図書館協議会
2021（令和3）年2月25日 教育委員会協議会
2021（令和3）年3月19日 図書館協議会
2021（令和3）年3月25日 教育委員会

塩尻市立図書館サービス計画

編集・発行 塩尻市立図書館

〒399-0736 長野県塩尻市大門一番町1-2番2号

TEL (0263) 53-3365

FAX (0263) 53-3369

発行 平成26年5月
